【授業科目】臨床細胞学総論Ⅰ　Clinical Cytology Ⅰ

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
白石 泰三、澤田 浩秀	２年次 前 期	選 択	2	30	講義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／細胞検査士を目指す者にとって、細胞診断学の基礎について学修する科目である。細胞検査士は、さまざまな臨床検体の中から異型細胞などを見出し、その異型細胞が悪性であるかどうか、さらに異型種類を同定することを業務とすることから、医療現場での需要が高まっている。本科目では、各種細胞の種類から、細胞の構造と機能、細胞死などの基本を学んだ上で、正常細胞および異型細胞の特徴を解説し、さらに異型細胞の中から良性異型細胞および悪性細胞が判定できるよう、各種細胞の形態学的特徴を教授する。また、細胞診標本の作製法、顕微鏡のしくみなどの基本的事項についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／レポート提出を課した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。
実務経験に関する 授業内容	細胞診専門医、細胞検査士の臨床経験をもつ教員が、臨床検査技師および細胞検査士として必用な臨床細胞学総論の知識について、臨床細胞学の資料・教材を交えながら講義を行う科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　細胞診の検体採取、検体処理法、染色法および顕微鏡のしくみが理解できる。 ②　細胞の種類、組織構築、細胞死、化生、炎症、腫瘍などの特徴が理解できる。 ③　正常細胞、良性異型細胞、悪性細胞の背景および出現様式の特徴と、それぞれの細胞の形態学的特徴、および細胞診スクリーニング法について理解できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	- 本科目の履修には、解剖組織学、血液学、免疫学、生理学、病理学、病理検査学の基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分学修する必要がある。 - 毎回の授業に対する予習、復習を必ず行うこと。 - できるだけ教科書、配布資料に記載された細胞像をよく読み、理解を深める必要がある。 - １回の講義につき、60分程度の予習および120分程度の復習を行うこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回　細胞診の概要（組織診と細胞診）	白石
	第 2 回　細胞診技術（検体の種類と特徴、検体採取法）	澤田
	第 3 回　細胞診技術（検体処理法,染色法）	澤田
	第 4 回　顕微鏡のしくみ（光学系、レンズの種類と特徴）	澤田
	第 5 回　細胞の形態学的特徴（細胞の種類と組織構築）	澤田
	第 6 回　細胞の形態学的特徴（細胞の変化、細胞死、化生、再生）	白石
	第 7 回　細胞の形態学的特徴（炎症、腫瘍）	白石
	第 8 回　細胞判読（背景と出現様式の特徴）	白石
	第 9 回　細胞判読（細胞診スクリーニング①）	澤田
	第10回　細胞判読（細胞診スクリーニング②）	澤田
	第11 回　細胞判読（正常細胞の形態学的特徴）	澤田
	第12 回　細胞判読（良性異型細胞の形態学的特徴）	白石
	第13 回　細胞判読（悪性細胞の形態学的特徴①）	白石
	第14 回　細胞判読（悪性細胞の形態学的特徴②）	白石
	第15 回　総括（医療における細胞診の役割）	白石

評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 学期末試験100％		
教科書	『改訂新版 臨床検査技師を目指す学生のための細胞診』　医療科学社	参考書等	『細胞診を学ぶ人のために 第６版』　医学書院 『～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方第４版』　近代出版
学生への メッセージ	・細胞検査士養成過程に進む学生にとっての基礎的科目であり、希望する学生は受講を必須とする。 ・細胞検査士養成過程に進む予定がない学生も、できるだけ多くの学生に受講を勧める。		